

紙管で月へ行け

第34回

連載

私が大切にしている言葉

田中紙管 株式会社

代表取締役社長 田中 誠司氏



大学での指導教官の言葉です。

私は勉強する気のない学生でした。3回目の4年生の時、どうあがいても単位が足りず、ついに退学の相談に行きました。そんな私を叱咤激励し、卒業まで面倒を見てくれた恩師。

卒業できたことにはカラクリがあります。私は一度大学を中退しています。「家業が傾き(!)お金がないので働きます。余裕ができたなら是非復学したい」と届け出ました。大学に籍の無い半年間、研究室で卒論を仕上げ、復学して単位を揃えて無事卒業。全て恩師のシナリオです。

家業を継ぐと決めている私に、「どうやって紙管で月へ行か考えろ」と、熱いエールで送り出してくださった教授。

その5年後くらいでしょうか。「君が真っ当な人間としてやっているかを見届けなければ退官できない」と、名古屋での学会の機会に弊社の三重工場へ足を運んでも下さいました。教授の最終講義は、学生時代にはあり得なかった情熱で拝聴しました。

“Moonshot”なる言葉が存在することを知ったのは卒業後ずいぶん経ってからのこと。月を見上げると、スケールの小さい男になっていないか、教授が問いかけてくる気がします。

弊社でも、部門長は団塊ジュニアの世代が担うようになり、いよいよ後進の育成に本腰を入れていきます。一人でも多くの若者達に、紙管で月へ行こうとする気概を持たせたいものです。

会社概要

田中紙管株式会社

- ◆ 本社所在地 八尾市老原6丁目8番地
- ◆ 主要製品 紙管および紙管製造設備の設計開発、製造および販売
- ◆ 創業 1911年(明治44年)10月
- ◆ 資本金 7,000万円



この連載は、人それぞれが「大切にしている言葉」を、経営者のみならずさまざまな立場の方から、エピソードを交えてご紹介いただくものです。